

## 講演会「樋口中将から学ぶ 使命感と人道主義」の紹介

小島 肇 陸自75

令和5年3月29日(水)、陸上自衛隊真駒内駐屯地において「樋口中将から学ぶ使命感と人道主義」と題する講演会が開催され、第11旅団(旅団長青木伸一陸将補・現第8師団長)の幹部陸曹約60名が聴講した。

陸軍中将樋口季一郎は、特務機関長として、1938年、ソ満国境オトポールでユダヤ難民約2万人を助け、終戦直後には、第5方面軍司令官として、占守島に侵攻したソ連軍に対して「侵略するソ連軍を断乎撃滅せよ!」として不法な侵攻に対する自衛戦闘を指揮、現地の池田末男大佐率いる戦車第11聯隊の奮戦もあってソ連軍を圧倒し、北海道の分断化阻止に繋がったと言われている。

この講演会開催は、今年1月に樋口記念館サポート人道会長の原鼎氏が青木旅団長を表敬した際に講演会の企画を提案したところ、正に現下の安全保障環境の厳しさに鑑み、隊員の使命教育に適したものと判断

がなされ実現に至ったものである。

今回の講演は2部構成で行われ、第1部では原会長により講話実施までの経緯や世界から見た日本の武士道などの精神文化についての紹介があり、第2部では樋口記念館館長江崎幹夫氏が、樋口中将の生い立ちから始まるその人生、特に陸軍軍人としての使命感や人道主義の実践の実例について、時系列を追って印象的な写真紹介も交え熱く語られた。



講演会の様子

約2時間にわたる講演を聴いた隊員からは「人道主義者として世界的に有名な樋口中将の根幹が、武士道にあったことに感銘を受け、日本人として誇らしく思った」、「国の命運

のかかった究極の場面での決心が、今の日本の礎になっている。どうすればそのように正しく状況判断できるのか、更に今後勉強したい」等の感想が聞かれ、隊員たちにとつて、それぞれの今後の任務遂行に際しての大きいなる参考と教訓になったようだ。

樋口記念館サポート人道会では、引き続き機会を捉えて、自衛隊駐屯地等での講演会を継続実施して、樋口中将から学ぶ使命感と人道主義を伝えて行きたいとのことである。

問合せ先：general.ha@ymai.njpf  
FAX 011-783-5442